



全校で創り上げた 充実の文化祭

校長 田山 満則

10月29日(土)、本校体育館にて、文化祭を開催しました。

コロナ禍で、地域の皆様にご観覧いただけなかったことは残念ですが、家族の皆様に来場いただき、充実した文化祭となりました。

オープニングは、文化祭実行委員会が制作したわくわく感いっぱい映像によって、文化祭のムードが高まりました。

プログラムのトップを飾ったのは、神楽「八幡」でした。3年生の梅川君が、子ども神楽に所属する最後の年ということもあり、関係の皆様のご支援を受け、文化祭での披露が実現しました。子ども神楽とは名ばかりで、その勇猛な舞に圧倒され、感動的でした。

1年生は、「ふるさとの未来について」の提案をしました。KRY 山口放送様の多大なご支援を受け、社内の「映像ライブラリー」に貯蔵されている膨大な記憶媒体の中から、昔の錦や美川の映像を探し出し、その映像を活用した発表を行いました。2月のまとめの発表まで、学習を進めます。

2年生は、職場体験学習の報告発表を行いました。各事業所の皆様のご配慮で、職場の機材や制服などをお借りして発表することができました。改めて、本校の子どもたちは、地域の皆様に見守られ、支えられていることを実感しました。本当にありがとうございました。

3年生は、劇「るろう」に挑戦し、見事に演じ切りました。「るろう(流浪)」の意味は、さまようこと。長い人生、さまよい悩むことも多いのですが、自分の道を信じて努力する大切さについて、演技を通して伝えてくれました。

全校合唱の「OH MY SOLDIER」は、ベトナム戦争の悲劇を嘆き、世界平和を願う曲です。ウクライナへの軍事侵攻など、混沌とした現在の世界が、幸せな世界となるよう願いを込めて合唱しました。

11月8日に、シンフォニア岩国で行われた岩国市中学校合唱祭でも、心を込めて歌いました。

その他、総合文化部(吹奏楽)の演奏や個人発表、作品展示など、盛りだくさんの内容でした。小中合同体育祭が終わってから約1ヶ月間、一人何役も担いながら、充実した内容の文化祭に仕上げる生徒の底力と努力に、心から敬意を表すとともに、「中学生

の学びや育ちにとって、かけがえのない活動である」と振り返っています。



「地域の力に！」 中学生 大活躍



11月3日、文化の日に「昼～遊びフェスタ実行委員会 2022」が主催する「昼～遊びフェスタ」が、ふるさとセンター広場で開催されました。

この時期には、汗ばむほどの晴天に恵まれ、子どもからお年寄りまで、多くの方が、久しぶりの催しを楽しみました。

本校の2年生を中心とする生徒は、「地域に貢献したい」「地域で楽しみたい」という思いで中学生コーナーのスタッフに名乗り出て、昨年同様にフェスタを盛り上げました。

今年は、「段ボール空気砲の射的」「紙飛行機作製」「雲をつくる実験」を準備して臨み、幼児や小学生が列を作って楽しみ、参加賞の景品も1時間で品切れするほど、大好評でした。コロナ禍にあっても、確実に地域のつながりが戻っていることを実感しました。



学力定着状況確認問題(県共通テスト)CBT化

10月21日(金)、24日(月)に2年生と1年生を対象にして、県の共通テストが行われました。

このテストは、毎年行われており、春に文部科学省が行う「全国学力・学習状況調査」とあわせて2回、学力の検証を行うことで、本県の児童生徒の学力向上の維持、向上をめざすものです。

今回初めて、CBT(Computer Based Testing)、いわゆるコンピュータやタブレット端末を利用して実施しました。

本校では、CBT化が計画予定された1学期から、キーボードのタイピングの練習を行い、夏休みにも、日記を打ち込む取組を行いました。生徒は、文字入力に戸惑うことなく、実力を発揮できたのではないかと考えています。

社会が激しく変化する中、教育現場では、ICTの活用が一層推進されています。このようなICT機器をこれまでの鉛筆や電卓のような文房具として賢く活用し、最も大切な人間としての関わりやつながりを大切にしたいと考えています。

